

会 議 録

1 会議名

第4回上越市総合計画審議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 意見を踏まえた修正と全体構成について（公開）
- (2) 土地利用構想について（公開）
- (3) 基本目標別の政策体系について

3 開催日時

令和4年7月29日（金）午前10時00分から12時00分まで

4 開催場所

上越市役所第一庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：大谷和弘、古川政繁、卜部厚志、小泉美佐子、林泰成、山縣耕太郎、柴野嘉紀、堀尚紀、阿部利夫、井澤翼、上羽亮、高橋信雄、中條美奈子、三浦元二、蓑和章、金子彰、飯塚多佳志、大山賢一、関原英里子、青木ユキ子、牛田光則、打田亮介、江村奈緒美、徳道茂、山崎活美
- ・事務局：池田企画政策部長、大島企画政策課長、志賀参事、内山副課長、海津係長、新保主任、丸山主任、伊倉主任、上石主事

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

会長あいさつ

【林泰成会長】

本日はお忙しい中ご出席を賜り、感謝申し上げます。

第4回となる今回は、まず前回の第3回会議や会議後に事務局にお寄せいただいた委員からのご意見・ご質問への対応について、事務局から報告があると聞いてい

る。

その後、その意見を踏まえた修正と計画全体の構成、将来都市像の実現に向けた土地利用の大きな方向性や考え方を示す「土地利用構想」のほか、前回会議で示された基本計画の取組の方向性をまとめた「第7次総合計画の基本目標別の政策体系」について審議いただくこととなるので、委員の皆さまから専門的な視点や日々のご経験から、忌憚のないご意見をいただきたい。

(2) 報告

(3) 議事

ア 議題(1) 第7次総合計画の全体構成について

【事務局（新保主任）】

報告及び議題(1)について、資料1～3により説明。

【江村奈緒美委員】

追加された副題に「生きる力を備えた」とあるが、生きる力は元々皆が持っているものではないか。災害などがあつたときにも生き抜くことができるという意味で使っているとは思いますが、目標として掲げられると違和感がある。

また、基本理念が長くなってしまい、分かりづらいように感じる。

【井澤翼委員】

基本目標の「次代を担う」という文言を削除するということだが、この言葉に込められた思いやビジョンも大切にすべきではないか。将来を考えたときに若い世代に向けた投資が必要であり、「次代を担う」という表現を残し、力を入れていくことを示した方がよいのではないか。

【大谷和弘副会長】

教育大綱では「学ぶ」という行為について、必ずしも子どもだけではなく、全世代の学びを表現している。「次代を担う」を外した方が教育大綱との整合が図られる。

【事務局（大島課長）】

「生きる力」については、検討の過程で「生き抜く力」のような表現も検討していた。皆さまから意見をいただきながら検討していきたい。

「次代を担う」については、行政内部としては大谷副会長に近い考えであるが、若者に魅力あるまちをつくることは重要なテーマであり、どのように強調していくかを併せて検討していきたい。

【牛田光則委員】

個人的には「次代を担う」がある方がよい。このフレーズは20代・30代に限らず、例えば、中山間地の農業などであれば、50代でも次代を担う人材になり得る。若者に限らず、次の世代に繋いでいくという意味で、残す方がメッセージ性は強まるのではないか。

また、教育については、社会的に期待される役割を果たすための教育と自身の満足感や人間性を向上させるための教育があるが、後者のための事業は「魅力と活力があふれるまち」に分類されるのではないか。

【大山賢一委員】

未来をつくっていくのは若者たちかもしれないが、若者を育てるのは大人であるということから、若者も大人もどちらも重要である。

【上羽亮委員】

先ほどの牛田委員の発言にもあったが、私も「次代を担う」のは、若者だけではないと考えている。削除すると全体がぼやけるのであえてそのままだでもよいのではないか。

【堀尚紀委員】

基本目標は短い文章なので、委員によって解釈に違いが出てくるものと思われる。基本計画や基本政策の中でそれぞれの解釈が明確になっていれば、基本目標の表現については議論する必要がないのではないか。

【三浦元二委員】

副題の中で、まちづくりとひとづくりが包含されているが、まちづくりの基本理念として考えると、「まちづくり」に限定した方がよいのではないか。障害なども含めて、様々な個性や特性を持った人がいる中で、あらゆる人に「生きる力を備えた」ということを当てはめるのは難しいように感じる。もし、「ひとづくり」も基本理念に含めるのであれば、「生きたいという思いを叶える」といった表現もあるのではないか。

【蓑和章委員】

基本理念の副題の必要性について聞きたい。

【事務局（大島課長）】

原案でメッセージ性が弱いなどの意見があったことから、副題を付けたいと考え

たものである。

【菘和章委員】

基本理念と将来都市像、基本目標の関係性を考えたときに、生きる力との関連性が見えない。そもそも総合計画の中で、生きる力を備えないといけないものなのかということだと思う。

【金子彰委員】

私も副題が不要であると思う。快適で幸せな暮らしと生きる力を備えるというところに繋がりが見えない。

また、全体の話として、計画の中の文章一つ一つにメッセージ性を込める必要はないのではないか。最終的に具体的な施策がまとめられ、実行されていけばいいのではないか。

【中條美奈子委員】

基本理念については、今の上越市は明るい未来を描けるような状況ではないという意見があった中で、事務局としては、厳しい状況であることをわきまえながらも、明るい未来を目指していくことを意思表示したものが今回の副題であると解釈した。

ここでいう「生きる力」というのは、たとえ自然災害や社会状況の変化があろうとも、上越市は快適でみんなが幸せに暮らしていける市を目指すのだという意味を込めたものと読み取ったが、聞いた人がみな同じように捉えられるものではないと思う。言い換えるならば、日本語では逆境力などと訳される「レジリエンス」という言葉になるが、新しい言葉であり、馴染みがないと思われる。「生きる力」に込めた意味について、こうした解釈で間違いないか事務局に確認したい。

【事務局（池田部長）】

まさしく事務局の考えを代弁いただいた。レジリエンスを備えたうえで快適で幸せなまちをつくっていきたい、明るい未来を目指すことと併せて、生き残っていく持続可能なまちをつくっていききたいとの思いで今回提案させていただいたものである。

【中條美奈子委員】

そうであれば、今の事務局の思いは我々の考えからも外れていないことから、より端的に伝わる言葉になればよいと思う。

【関原英里子委員】

今回の資料を見たときに、基本理念や将来都市像の修正に対し、そうしたまちに
していくのだという強い意志を感じた。「生きる力を備えた」という部分については、
私たち中小企業としては、企業が生きる力を備えているまちと捉えることができる
し、企業を誘致する際にも、そういったまちであれば来たいと思うこともあるなど、
捉え方は様々であると感じている。また、中小企業にとっては、ひとつづくりが一番
であり、この表現については賛成であるが、より分かりやすい言葉があればよいと
いう点については中條委員と同意見である。

【林泰成委員】

残りの議題もあることから、本件についての議論はここまでとしたい。不足があ
る委員は意見等集約シートを事務局へ提出願いたい。

イ 議題(2) 土地利用構想について

【事務局（海津係長）】

資料4により説明

【打田亮介委員】

市街地における宅地造成が現在も進んでいるが、時間が経てば新たな空き家の増
加や、老朽化したインフラの修繕に費用がかかるといった問題につながっていくた
め、新しい宅地の造成については考えていく必要があると思っている。

【金子彰委員】

確認だが、総合計画は立地適正化計画等と比較したときに、上位になるのか下位
になるのか。

また、都市拠点として3か所挙げているが、高田市と直江津市が合併する際に、
行政拠点を春日山に置くこととし、この地区に集中投資をしてきた経緯があり、高
田と直江津は行政の中心から外れていると認識している。各拠点の役割をどう考え
ているのか。

【事務局（大島課長）】

宅地造成について、市として積極的に推し進める立場にはいない。

総合計画は市の最上位計画であり、立地適正化計画や都市計画マスタープランと
比較しても上位となる。都市拠点の役割については、資料中に記載しており、行政

機能は春日山にあるが、都市機能や商業機能等を有していることから、高田や直江津も都市拠点としている。

【金子彰委員】

高田や直江津を今後どうしていくかということについて、具体的に示すべきではないか。

また、開発の話があったが、関連して工業団地については、市内に進出したいという企業がいても、すぐに使える用地がないというような状況である。企業誘致を考えるならば、ある程度のインフラを整備する必要がある。

【事務局（池田部長）】

工業団地について、同様の課題認識を持っており、対応について検討している。

高田・直江津には歴史的なまちなみや鉄道、水族館などがある中で、どのようにその個性を際立たせていくことができるかという観点から提案をしているところである。

【山縣耕太郎委員】

土地利用区分では、中山間地域が最も面積が広く、どのように取り扱っていくかということが重要かつ喫緊の課題であると考えている。記載内容は現状の維持や保全が中心となっており、それだけでは先細りしていきただけである。中山間地域の特性をいかした産業振興や地域ならではの役割の創出を検討していくことが必要ではないか。

また、上越市の中山間地域は地すべり地帯ということもあって集落が分散していることから、地域拠点の下に集落を組み込むのは難しいと考えており、階層性を持った構造を検討する必要があると感じている。

さらに、そういった地域を持続させていくための交通ネットワークとして、バスだけに頼るのは難しいため、NPOを活用したデマンド交通など、新たな交通システムの導入が必要であると考えている。

【江村奈緒美委員】

先ほど産業団地の話が出たが、県南部産業団地などを見ると、区画がまだまだ空いているように感じるが、それだけでは不足なのか。

また、資料中に、「住む場所に限らず一定の生活の質を確保」とある。特に一人で住んでいる高齢者の交通手段の確保をお願いしたい。

このほか、上沼道について触れている箇所があるが、総合計画の計画期間内に完成するような目処はあるのか。

【堀尚紀委員】

上沼道は上越一魚沼間の延長が約 60 k mの道路を計画しており、現在事業化されているのは4区間のみとなっている。ルートが決まっていない区間や埋蔵文化財調査等を実施していて道路自体の工事に入れていない区間もあり、完成時期についてはお示しできる状態にないが、一日も早く完成できるよう作業を進めているところである。

【徳道茂委員】

都市拠点とゲートウェイの関係性がわかりづらい。ゲートウェイというと通過点の印象が強く、港やインターチェンジが位置付けられるのはわかるが、上越妙高駅は、もてなしのための施設やサテライトオフィスの集積などにより人が集まる場所になってきており、同様の位置付けとしてよいのか。

【事務局（池田部長）】

上越妙高駅は人流を想定した商業施設や利便施設が設置されている。複数の多様な機能を持ったエリアというよりは、特定の機能に特化したエリアとしてイメージしてゲートウェイとして位置付けている。今後の在り様によっては扱いの変更を検討したい。

【金子彰委員】

江村委員より産業団地について話があったが、県南部産業団地は90%ほど売却済である。この団地以外にも市の産業団地があるが、木を伐採しないと活用できなかつたり、面積が狭くて大規模な企業が入れないなどの問題がある。

参考までに、上越妙高駅周辺については、地下に遺跡があつたり、ほ場整備が完了していたりする影響で、活用可能な土地を今以上に広げるとは難しいことから、限られた面積でも進出できるようなIT企業などが望ましいと感じている。

【林泰成会長】

時間が押しており、本件に関する議論はここまでとしたい。こちらも先ほどと同様に、発言できなかった部分は意見集約シートを事務局へ提出願いたい。本日の会議で出た意見についても事務局で検討し、次回提案願いたい。

ウ 議題(3) 基本目標別政策・施策体系について

【事務局（新保主任）】

資料5により説明。

【金子彰委員】

第6次総合計画からの変更点や追加点がわかるような資料をいただきたい。

【事務局（大島課長）】

第6次総合計画とは全体の建てつけから大きく変わっている。特に強化していく点なども含めて、次回お示ししたい。

【金子彰委員】

守りの部分と攻めの部分があるというような話もあり、メリハリをつけて提示してほしい。

【事務局（大島課長）】

全体構想の中でも少し説明したが、重点テーマというような、第7次総合計画で力を入れることについても次回お示ししたい。

【中條美奈子委員】

男女共同参画のところで、男女ともに仕事と家庭を両立できる環境づくりを入れてほしい。男性が家庭に帰ることができるということが、男女共同参画の観点には重要である。

また、子どもの虐待予防という表現については、地域で子どもを育てることで虐待を防ぐということだと思うが、表現は変更した方がよいのではないか。

【山崎活美委員】

相談体制の強化というところにLGBTQの方々も含めるといった話があったが、性的マイノリティの方々への市民の意識を啓発するといった意味で、そういった文言も明記してほしい。

【大山賢一委員】

方向性については概ねよいと思うが、これから計画を実践していくにあたり、評価に関する部分を内容に盛り込んでほしい。決算を議会に諮るタイミングなどで、市民に評価結果を示すことが重要であると考えている。

また、現在は記載がない分野横断的な課題について、明記していく必要がある。

【江村奈緒美委員】

山崎委員からLGBTQに関する話があったが、そういった方と話をすると、個性がある一人の人間として捉えてほしいと言っており、男女共同参画というよりは、人権や多様性の尊重といった中に位置付けられてもよいのではないかと感じる。

男女共同参画も考え方は重要ではあるが、言葉としては時代にそぐわないように感じる。

【林泰成会長】

今のお話をお聞きして、多様性の尊重の中に、感覚としてはすでにLGBTQといったものは入っていると感じた。

【三浦元二委員】

市民主体のまちづくりに向けた取組として、現在、地域協議会のあり方などを議論している中で、地域協議会に限定して方向性が示されているのは違和感がある。

【飯塚多桂志委員】

課題が複雑化している中、分野を横断した課題解決が必要と考えている。関連する柱のつながりが見えるようになっているとよい。

【林泰成会長】

会議の終了予定時刻になることから、言い足りない意見については改めて事務局へ送付いただきたい。それらも踏まえ、事務局でさらに検討を進めていただきたい。

(4) 閉会

企画政策部長挨拶

【池田企画政策部長】

貴重な意見をいただき感謝申し上げます。我々が気付かなかった点や考えが及ばなかった点について示唆いただいたものと思っている。皆さまからいただいた意見を受け止めつつブラッシュアップしていき、納得感の強い計画にしていきたい。庁内でしっかりと議論をし、さらに検討を深める中でご意見を頂戴したいと考えており、引き続きご協力をお願いしたい。

(5) その他

【事務局（内山副課長）】

次回開催日程等の事務連絡。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画調整係

TEL : 025-520-5625

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。